新修神戸市史

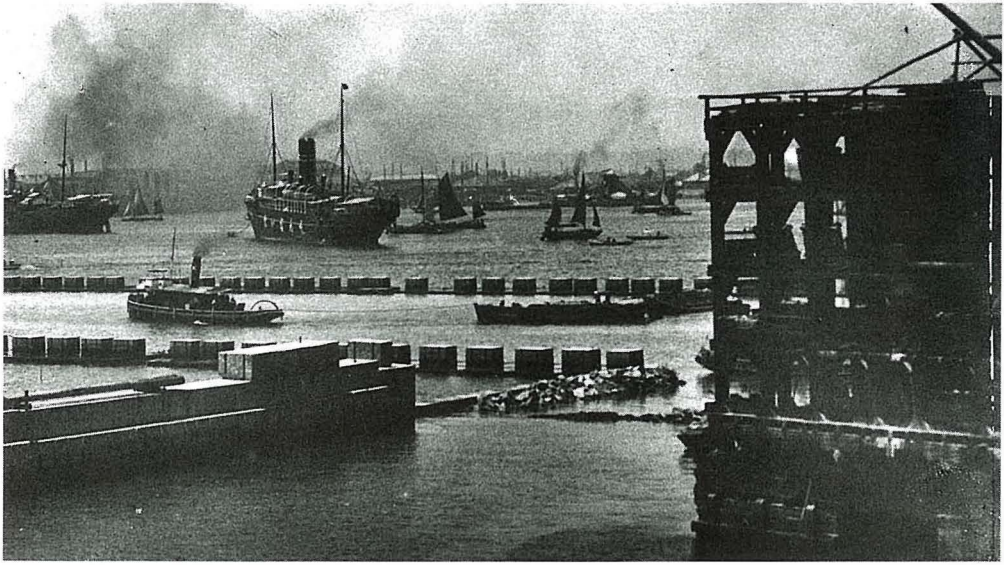
歴史編Ⅳ

近代・現代

1　摂州神戸海岸繁栄之図

2　居留地風景

3　相生町風景



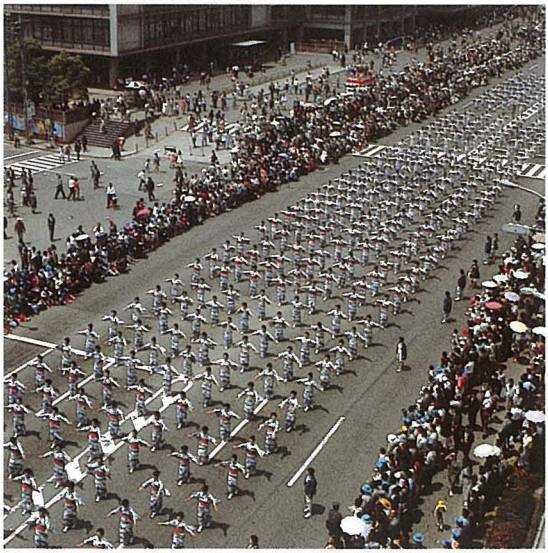
5　昭和前期の農村風景

4　築港工事

6　国鉄の高架化

8　戦後の高架下

7　戦災の市街地



9　回復してきた市民生活

10　明日をめざす神戸

凡例

一、『新修神戸市史』歴史編は、「自然」「考古」、「古代」「中世」、「近世」、「近代」「現代」からなるが、この巻は第四巻として「近代」「現代」を収める。

一、この巻の執筆分担者は、巻末に一覧表で示した。

一、本文の叙述は原則として、常用漢字、現代かなづかいを用いた。ただし、歴史的用語、固有名詞、引用文などについては、必ずしもこの原則によっていない。

一、本文の叙述は、諸氏の研究成果に依拠しているが、本書の性格上、いちいち出典を示さず、巻末に参考文献の一覧を掲げた。ただ、直接的に引用した場合（原則として読み下し文に改めた）は本文中に出典を記載した。新聞名ではときに略称（『神戸又新日報』を『又新』に、『神戸新聞』を『神戸』に、『大阪朝日新聞』を『大朝』に、『大阪毎日新聞』を『大毎』になど）を用いたところがある。

一、人名の敬称はすべて省略した。

一、難訓または誤読のおそれのある漢字は、各章の初出のところで、ふりがなを付した。神戸市内の地名の読みは、基本的には神戸市総務局区政課編『神戸市町名一覧表』（平成三年）に

よった。

一、文中の写真、図、表は、それぞれ通し番号を付した。これらの掲載と提供に協力していただいた関係機関、団体ならびに諸氏の名称は、原則として巻末に掲げた。

一、史料提供・協力者の一覧は巻末に掲げた。

一、本文中の年月日は原則としてその時の日本暦によっている。ただ、太陽暦施行前の明治五年までは日本暦と西暦との間に若干のずれがあるが、参考までにその年にほぼ相当する西暦年を（　）内に記した。

一、度量衡については、史料に則して尺貫法などで記されているところもあるが、巻末にその換算表を付した。

一、本文および引用されている史料のなかには、身分や職業などに関して、当時の差別的名称で記されている部分があるが、差別の歴史を科学的に研究する立場から、本書ではそのまま掲載した。

題字　前神戸市長　宮崎辰雄

新修神戸市史　歴史編Ⅳ　近代・現代

目　次

第一章　近代黎明期の神戸

Ⅰ　都市部の動向……二

第一節　近代都市行政機構の成立……二

1　神戸事件と神戸の治安……二

神戸事件　ポリスの整備

2　地方行政機構の確立……八

兵庫県の誕生　戸籍の制定　戸籍区から行政区へ　公選民会の準備　民会開設の困難　三新法と神戸区

第二節　開港と文明開化……二〇

1　居留地の成立……二〇

兵庫と神戸　居留地の建設

2 近代都市空間の誕生……二四
市街の形成　都市行政の計画化　都市の地帯化　郊外問題と都市の膨張
3 文明開化の生活と文化……三三
文明開化の上陸地　衣食住の変遷　教育の近代化　ジャーナリズムの発展
キリスト教の拡大　キリスト教と家庭道徳　仏教の再興　湊川神社の創建
第三節　都市行政の展開と自由民権運動……四三
1 都市行政の肥大化……四三
都市行政の増大　戸長役場改革問題　公選民会への要求　神田県令と森岡県令
地方議会の困難
2 自由民権運動……五三
民権運動の形成　交詢社の影響　森岡県令と交詢社　交詢社系民権の基盤
明治十四年政変の影響
3 松方財政下の神戸……六二
商工業者団体の解体　資本家の腐敗　民権運動の弾圧と県政の変質
第四節　神戸市制の成立……六六
1 公共事業への要求の拡大……六六
デフレ下の神戸　貧困問題と公共事業要求
2 地方自治制の形成……七〇

地方自治の精神　政党の二つのパターン　大同団結運動の展開　立憲自由党の結成へ

第五節　神戸市政と都市計画 …… 七七

1　初期の神戸市会 …… 七七

神戸市の誕生　初期の市会　初期市会の特質　市民の排他意識

2　都市公共事業要求の形成 …… 八五

市政と貧困問題　救貧と公共事業

3　積極財政主義への「転換」 …… 九〇

自由党系の台頭　積極主義へのめばえ

4　選挙干渉事件 …… 九四

水道事業と労働問題　第二回総選挙と村野山人　市民の公共事業への関心

5　神戸市民の形成 …… 九九

良き市民の創造　清国艦隊とロシア艦隊　ナショナリズムの成長

Ⅱ　郡部の動向 …… 一〇八

第一節　維新変革と地域社会 …… 一〇八

1　第一次兵庫県の成立 …… 一〇八

維新以降の行政管轄の変化　第一次兵庫県の村落統治　近世の組合村の継続とそ

の変化
2　地域社会の動揺と藩・県の対応……一一五
維新直後の地域社会の動揺　不穏な状況への県の対応　諸藩領の窮乏とその救済
宗門人別改五人組帳と戸籍
第二節　廃藩置県後の地域社会の変化……一二八
1　戸籍による人民の把握……一二八
壬申戸籍と「四民平等」政策　戸籍法と行政組織の変化　「四民平等」政策の影響　徴兵令の制定
2　大区小区制期の地方行政……一三七
兵庫県の一九区制　区の運営のあり方　兵庫県の地方民会　飾磨県の大区小区制
3　旧明石藩領における騒動……一四九
貢租納入方法の変化　第一小区・第二小区での騒動　第三小区での戸長への疑惑の拡大　第三小区での騒動の経過　飾磨県の地方制度改革　飾磨県の地方民会
第三節　地租改正による町村運営の変化……一六三
1　地租改正による町村運営の変化……一六三
兵庫県の地租改正の特質　町村の運営の変化　地租改正前後の町村合併
2　租税協議権思想と会議方式の浸透……一六九

会議方式の浸透　租税協議権思想の浸透

第四節　地方三新法形成と郡部の動向……一七七

1　地方三新法の成立……一七七

地方三新法の成立　郡役所の設置　三新法下の町村　三新法による町村会

町村会の運営

2　連合町村戸長役場制の展開……一九一

明治十三年の連合町村戸長役場制　単独戸長役場制の併用　戸長役場分離などの要求

3　公共事務の展開……一九八

小学校教育　衛生・治安・通信

第五節　郡部の自由民権運動と明治十七年の地方制度改正……二〇六

1　県会の設置と自治権拡大要求……二〇六

三新法による県会の開設　県会における地方自治拡大要求　交詢社・改進党系の政治運動　地方自治と国家についての構想

2　明治十四年政変後の県政……二一六

政治状況の変化　運動への弾圧と懐柔　松方デフレの進行　飾磨県再設置の運動　自由党の浸透

3　明治十七年の地方制度改正……二三五

明治十六年の戸長役場制度の改正　明治十七年の地方制度改正　町村会と連合町村会　松方デフレ下の地域運営　郡役所と戸長役場機構の整備

第六節　市制町村制の施行と行政村の成立……二三九

1　市制町村制の施行……二三九

明治地方自治制とその理念　市域における町村制の施行過程　新しい町村　議員選挙方法と町村会の機能

2　行政村の成立……二五一

行政村形成をめぐる紛争　周辺農村の編入をめぐる動向　新町村の役場　固有事務と委任事務　行政村と部落

第二章　近代都市神戸の発展

第一節　日清戦争と神戸……二六八

1　戦争と市民……二六八

対外硬派と第三回総選挙　県会選挙　対外硬派の運動　戦時下の第四回総選挙

戦争と市民

2　戦争と経済……二七七

貿易の不調

3　ハワイ移民……二七九

移民会社の続出

第二節　都市改造の進展……二八一

1　築港問題……二八一

税関拡張問題　貿易業者と商業会議所　兵庫部の商工業者　築港問題

2　市街電鉄問題……二八九

摂津電気鉄道計画　阪神電気鉄道計画　市内電気鉄道計画

3　日清戦後の「大事業」……二九三

上水道　運河開削　兵庫海岸埋め立て問題　湊川改修

4　都市改造……二九九

学区と課税問題　新市街と都市基盤整備計画　都市財政の問題点

5　営業税反対運動……三〇七

営業税法の制定　営業税反対運動

6　都市の政治……三一〇

予選体制の成立　神戸市・横浜市の特色　実業中立会の設立　新市会と市長選出問題　第七回総選挙と神戸　地租増徴問題と神戸市　第九回総選挙と神戸市　戦時下の第六回市会選挙　第一〇回総選挙と神戸市

第三節　内地雑居問題……三三〇

1　神戸とアジア……三三〇

幣制改革問題と神戸　貿易構造と神戸
2　神戸の労働者……三三三
神戸労働株式会社　労働人口の特色
3　条約改正……三三六
内地雑居問題
第四節　日露戦争と神戸……三三九
1　戦争と神戸経済界……三三九
開戦予想と貿易　開戦後の貿易
2　戦争と市民……三四二
開戦を予期する世論　国債・軍債応募・軍資献納運動　排外主義と祝賀会　戦争と地方財政　市長と市参事会
3　講和反対騒擾……三五四
講和をめぐって　講和反対市民大会の準備　湊川神社伊藤博文銅像事件　講和問題市民大会と暴動
4　坪野市長辞任と水上市長の就任……三六八
避病院問題と坪野市長辞任　水上市長の登場
第五節　神戸の「民本主義」……三六三
1　公民会の市政改革運動……三六三

立憲国民党と県、市の政界　大阪市の市政改革運動と神戸市　公民会の結成
2　明治四十三年の二つの選挙……三六八
市会半数改選　立憲国民党支部の発足　衆議院補欠選挙　原敬の危機感と都市政治の変化
3　第一次護憲運動……三八〇
明治四十五年の政治状況　公民会と中立派の蹉跌　政友会の挽回策Ⅰ　政友会の挽回策Ⅱ　衆議院選挙と市民会の結成　明治四十五年衆議院総選挙　都市の政治状況　増師問題と政党　国民党の分裂　神戸立憲青年会の結成　兵庫県選出議員の動向　東京の暴動　小寺・横田邸襲撃事件　軍隊出動問題　山本内閣成立と神戸政界
4　大正二年の市会総選挙……四〇三
単記投票・総改選の結果
5　スラム問題……四〇六
スラムの形成　「下層社会」の生活　改善運動の開始
第六節　郡制の施行と地方改良運動……四一一
1　郡制の施行……四一一
府県制郡制の特質　遅れた府県制郡制施行　郡制施行までの郡の運営　兵庫県の郡制施行準備　林田村・湊村などの神戸市への編入　郡制の施行　府県制郡制の改正　郡の地域運営上の位置

2 明石郡における地方改良運動の展開……四三五
三輪郡長の赴任と明石郡町村自治体系　郡青年会の組織　戸主会の設立　郡町村自治内容奉告祭の開催　地域秩序の動揺と利害対立の激化　地方改良運動の展開と町村制の改正　「家」観念による地域運営の限界　勧業政策の進展　行政の整備・充実

第三章　第一次大戦後の神戸

第一節　都市計画と公共事業の伸展……四四六
1 第一次大戦後の神戸……四四六
市の膨張発展と社会諸問題　財政問題と政治の動き
2 市の膨張と交通量の増大……四四八
市の膨張と交通量　将来の交通量の予想
3 都市計画の進展……四五〇
市区改正調査委員会と諸計画　都市計画法と都市計画委員会　神戸市都市計画の諸構想　都市計画区域の設定と地域指定　都市計画街路網の決定とその他の計画
4 都市計画と市域拡張……四六一
須磨町の編入　東部三町村の編入
5 都市計画事業と関連事業の展開……四七〇
道路の新設拡張　市電の延長　土地区画整理組合

6　国鉄・私鉄問題と築港事業……四七八
市内縦貫鉄道(国鉄)改良問題　私鉄乗入れ問題　築港事業の進行
7　市営の電気供給事業と水道事業……四九一
電気供給事業　水道事業　下水道の遅れ
8　都市計画への提言と批判……四九五
長知事の回想　市民の声　兵庫県都市研究会　都市計画官僚とその主張
第二節　学区の統一と地域住民組織の動向……五〇五
1　各区の人口増加の特徴……五〇五
人口の増加　労働者人口の構成
2　学区統一問題……五〇九
学区の成立　学区制下の教育　学区間格差の増大　越境通学者の増加
初等教育の変容の兆し　神戸市の実業補習教育　補習教育の要請
学区と補習教育　学区統一の過程
3　学区統一後の教育……五二四
学区統一後の初等教育　学区統一後の補習教育
4　神戸市青年団の成立……五三〇
神戸市青年団の起源　日露戦争後の青年団　同業組合型青年団　神戸市連合青年団　単位青年団の実態　単位青年団設立の背景　修養団思想と青年団

5　屎尿汲取と衛生組合……五四一
衛生組合の設立　明治三十三年の屎尿騒動　日露戦争以降の衛生組合　屎尿汲取の停滞　屎尿汲取の市営化
6　在郷軍人会……五四九
在郷軍人会の結成　大正期以降の変化
第三節　社会運動と社会政策……五五一
1　米騒動と社会政策……五五一
大戦好況と生活の変化　米価暴騰と「窮民」の立上がり　社会政策の開始　地域改善事業　生活スタイルの自覚と社会政策　労働運動の転換　川崎造船所労働者のサボタージュ
2　生活改善運動の展開……五六四
戦後不況と失業問題　大正十年の争議　生活改善運動の展開と住宅問題　湯屋問題　部落解放運動と生活改善
3　思想の急進化……五七七
労働運動の急進化　金融恐慌と失業問題
第四節　市財政の構造とその変化……五八二
1　市財政総収入の変化の概要……五八二
「普通経済」と「特別経済」　財政収支の概要

2　電気事業費と水道事業費……五八七
電気事業費　市電事業の困難化　水道事業費
3　都市計画事業費……五九五
第一期・第二期事業費　第三期事業計画の困難
4　市費（一般会計）の変化……六〇〇
歳出の変化　公債の収支
5　繰入金問題と公共料金問題……六〇八
公益事業と繰入金問題　公益主義をめぐる対立　無産政党の公共料金値下げ運動
6　増税をめぐる政治的対立……六一四
税収入の構成と変化　増税をめぐる政治的対立　都市の事業の拡大と増税　昭和初年の増税反対運動
第五節　特別市制運動……六二四
1　特別市制運動の経過……六二四
特別市制への条件の成立　神戸市の特別市制運動　六大都市の運動と中央の動向
昭和初年の神戸市の動き
2　特別市制をめぐる問題点……六三〇
二重監督問題　警察権移管問題と市長官選・公選問題　特別市制をめぐる県と市
自治発展上の問題点

3 「神戸市繁栄策」……六三六
藤原米造の「神戸市繁栄策」　都市の自立の困難

第六節　諸党派の動向と各級選挙……六四〇

1 衆議院議員選挙と県会議員選挙……六四〇
衆議院議員選挙と各党派　民友会と県議選　政界再編と県議の動向　非政友各派の地盤

2 普通選挙運動の展開……六四七
大正八、九年の普選運動の高揚　神戸普選連盟の活動

3 政界革新勢力の台頭と無産政党の成立……六五二
既成政党批判勢力の台頭　暁明会の活動　神戸愛国青年党の活動　実業同志会神戸支部　神戸立憲青年会　憲政会支部の動き　立憲興民会　労働者の組織化　政治研究会神戸支部　労働農民党支部　社会民衆党支部　日本労農党支部

4 市会議員選挙と会派の動向……六七〇
選挙方法とその変化　市会議員選挙　大正十年の市議選　大正十四年の市議選
市長の銓衡をめぐって　市会派の政党化　初の普選市議選　新しい市会

第四章　一五年戦争下の神戸

第一節　経済の発展と国際海港都市神戸の形成……六八六

1　昭和恐慌と神戸経済……六八六

慢性不況下の神戸経済　昭和恐慌の影響　恐慌からの脱出　重化学工業化の進展　日中全面戦争の勃発と神戸経済　中小工業の動向

2　貿易の発展と国際海港都市神戸……七〇三

外国貿易の動向　神戸港貿易の動向　アジア貿易の発展　貿易構造の特徴　輸出貿易の特徴　輸入貿易の特徴　国際都市化の進展　港湾の整備　在留外国人の動向

第二節　都市政治構造の変容と再編……七三六

1　昭和恐慌以降の地域社会の変容……七三六

昭和八年の市会選挙　昭和初期の住民世帯

2　青年団の再編……七三〇

昭和期の青年団　単位青年団のリーダー　市連青の活動　青年団規程の改正　市の青年団指導方針　経済更生運動と青年団　壮年団の結成

3　衛生組合の変化と行政区……七四〇

屎尿汲取料問題と衛生組合　衛生組合の法人化問題　神戸市従業員組合と無産政

党　行政区の設置　行政区と選挙　衛生組合から町会へ　垂水町の編入 …七五三

第三節　都市社会矛盾の顕在化

1　反百貨店運動と都市小ブルジョワジーの政治活動 …七五三
都市中小商工業問題の顕在化　小売商の危機的状況　神戸市小売商組合連盟の結成　小売商と公・私設市場の対抗問題　十合の三宮進出と反百貨店運動の激化　百貨店対小売商問題と神戸市民　小売業者の政党結成と神戸小売商組合連盟の対応

2　労働組合運動の高揚とその変容 …七九〇
労働組合運動の推移　兵庫県における労働争議の動向　神戸市における労働争議の動向　昭和恐慌下無産政党の離合集散　満州事変と国家主義的無産政党の出現　反ファッショ人民戦線運動と社会大衆党　日中全面戦争の開始と国策協力方針

第四節　戦時支配体制の確立 …八〇一

1　選挙粛正運動の展開 …八〇一
選挙粛正運動の狙いと組織　第一次選挙粛正運動　神戸市における運動の展開　県会議員選挙と選挙粛正運動　盛り上りを欠いた第一次選挙粛正運動　第二次選挙粛正運動　衆議院選挙と選挙粛正運動　第三次選挙粛正運動　神戸市会と選挙粛正　神戸市における第三次選挙粛正運動　林内閣の衆議院解散と選挙粛正運動　神戸市会選挙と選挙粛正運動の再開　選挙粛正運動の意義

2　大政翼賛会と地域組織 …八二四

大政翼賛会の結成　町内会改組と市職制改革　翼賛壮年団　翼賛体制下の市会議員選挙　会派解消問題と翼賛市政会……八三七

第五節　戦争への国民動員と敗戦

1　阪神大水害とその影響……八三七

昭和十三年大水害の発生　神戸市当局の対応　神戸市復興委員会の活動　大水害と神戸市会の対応　政府への陳情活動

2　神戸市における排英運動の高揚……八四八

排英運動台頭の背景　昭和十四年の神戸市の排英運動　排英同盟の結成と県会・市会の動向　反英ムードの醸成　昭和十五年の神戸市の排英運動　兵庫県会・神戸市会の排英運動　広がる反英感情　「英国人スパイ事件」と排英運動　六甲開祖之碑の撤去運動　排英運動の意義

3　神戸市域における朝鮮人労働……八六七

神戸市における朝鮮人強制連行問題　強制連行以前の神戸市域の朝鮮人労働　強制連行実施後の神戸市域の朝鮮人労働

4　空襲の激化と敗戦……八七三

戦時下の神戸市政の動向　銃後体制の整備とその矛盾　学童疎開の実施　神戸空襲と敗戦

第五章　戦後の神戸市

第一節　敗戦と占領……八九四

1　敗戦と占領軍の神戸進駐……八九四
ポツダム宣言の受諾　連合軍総司令部（GHQ）の成立　占領軍の神戸進駐　神戸軍政部の成立　占領軍による土地・建物の接収

2　敗戦直後の神戸の状況……九〇五
終戦と神戸　中井市長の誕生　機構改革と市役所の移転　中井＝マッカーサー会談　神戸市復興基本計画要綱の策定

第二節　「民主化」と地方政治……九一三

1　政治の民主化……九一三
日本国憲法と地方自治法の制定　政党の復活　選挙法改正と公職追放　戦後初の衆議院議員総選挙

2　占領改革と地方行政……九一九
町内会・部落会の廃止　警察制度改革―神戸市警の誕生　教育の民主化　戦後教育体制の発足　財閥解体・農地改革・農民運動

3　労働運動の高揚と二・一ゼネスト……九二九
労働組合の復活　食糧危機と民主戦線への動き　産別の結成と八月～十月闘争

吉田内閣打倒国民大会　二・一ゼネスト
4　昭和二十二年四月選挙……九三八
兵庫県民主政治会の結成　選挙法改正と第二次公職追放　初の知事・市長公選
参議院・衆議院選挙　戦後初の市会議員選挙

第三節　占領下の神戸市政……九四七
1　特別市制問題……九四七
大正七年以来の念願　府県側の反対　地方自治法の施行と特別市制度　「住民投票の範囲」をめぐる解釈の転換　民政局と特別市制度
2　港湾法の制定……九五四
戦後の神戸港　港湾業者の反対　管理母体をめぐる県と市の対立　港湾法の制定　まぼろしの自由港設置

第四節　占領政策の転換と神戸市……九六一
1　第一次神戸朝鮮人学校事件……九六一
神戸の在日朝鮮人　朝鮮人学校の閉鎖要求　事件の経過　占領軍の対応　事件後の動き
2　占領政策の転換とドッジ・ライン……九六八
占領政策の転換　昭和二十四年総選挙　神戸市財政とドッジ・ライン　原口市長の誕生　神戸博の開催

3　神戸市公安条例の制定……九七六
団体等規制令と公安条例の制定　条例反対運動と改正の動き
第五節　サンフランシスコ講和から「五五年体制」の成立……九八〇
1　朝鮮戦争と神戸市……九八〇
朝鮮戦争の勃発とレッド・パージ　第二次神戸朝鮮人学校事件　朝鮮戦争と神戸の経済
2　サンフランシスコ講和条約の締結……九八三
講和問題と平和運動　遅れた兵庫県総評の結成　社会党の分裂　昭和二十六年市会議員選挙　港湾の接収解除　警察法改正と神戸市警の廃止　第二次特別市制運動　昭和二十八年市長選挙―原口市長の再選
3　「五五年体制」の成立……九九三
昭和二十七・二十八年総選挙　昭和三十年二月衆議院総選挙　昭和三十年市会議員選挙　五五年体制の成立と神戸市
第六節　市域の拡大……一〇〇一
1　北部三ヵ町村、西部七ヵ村の合併……一〇〇一
戦後の合併構想　交渉の経過　知事への答申―大久保・魚住・二見の除外
2　東部五ヵ町村、北部三ヵ村の編入……一〇〇七
東部三ヵ町村との合併―市長の決意　御影など三町村の合併　有馬郡三ヵ村の合

併　合併の停滞　長尾村の編入　新市町村建設促進法の施行　淡河村の編入
神戸市と「適正市域」
3　明石市との合併問題……一〇二六
明石市との合併問題　三度合併の申し入れ　明石市における住民投票

第六章　経済成長と神戸市政

第一節　高度成長と神戸経済……一〇三三
1　産業基盤の拡大……一〇三三
戦前水準への復帰をめざして　東西埋立地の造成
2　産業構造の宿命……一〇三六
伸び悩む神戸経済　神戸貿易・港の再生

第二節　政治革新と環境保全……一〇三一
1　政治革新の波……一〇三一
進む多党化傾向　宮崎市政の誕生
2　環境行政の展開……一〇三五
人間環境都市の宣言　生活福祉行政の展開　参加・実践型市民活動　都市環境の整備

第三節　文化産業と経済振興……一〇四六
1　都市活性化への対応……一〇四六
インナーシティ問題　ポートアイランドと西神ニュータウン
2　文化産業の創造……一〇五〇
ファッション産業の胎動　ポートピア'81の開催　二十一世紀都市への創造

〔巻末付録〕

執筆者一覧
編集協力者
写真・図(付図)・表(付表)一覧
参考文献目録
付図
単位換算表
付表